

News Release

ガス・石油暖房機器による事故の防止（注意喚起）

これから冬を迎え暖房器具を使う機会が増えますが、ガス・石油暖房機器^{※1}の事故は、火災や一酸化炭素中毒、やけどを伴う場合が多く、火災による被害とともに重篤な人的被害も多く発生しており、注意が必要です。

NITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※2}において、ガス・石油暖房機器による事故は、平成21年度から平成25年度までの5年間に、合計602件^{※3}ありました。

被害状況別に見ると、死亡事故64件、重傷事故31件、軽傷事故114件、拡大被害^{※4} 265件、製品破損^{※4} 91件、ほか37件となっています。このうち、火災を伴う事故は310件発生しています。

事故の発生状況を分析すると、使用者の誤使用や不注意などによる事故が多く発生しており、死亡や重傷等の重篤な人的被害に至る割合も高くなっています。

【主な事故事例】

- 石油ストーブのカートリッジタンクのふたをしっかりとめていなかったため、給油後に石油ストーブタンク室に戻そうとしたとき等にふたが外れ、こぼれた灯油が燃焼部にかかって引火し、火災が発生した。（死亡事故）
- 石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶がファンヒーターの温風で加熱され、内圧の上昇により破裂するとともに、気化した可燃性ガスにファンヒーターの火が引火して、火災が発生した。（軽傷事故）
- ガスファンヒーターのガス接続口に専用ガスコード（両端に接続継手が装着されているもの）ではなく汎用のガス用ゴム管を接続して使用したため、接続口からガスが漏れ、漏れたガスにガスファンヒーターの火が引火してやけどを負った。（軽傷事故）

ガス・石油暖房機器による事故は、12月から1月にかけて最も多く発生しています。

本格的な冬を迎え、ガス・石油暖房機器を使用する機会が増加する時期に際して、製品を正しく使用し、事故を未然に防止していただくために、注意喚起を行います。

（※1）石油ストーブ、石油温風暖房機（石油ファンヒーター）、ガストーブ、ガス温風暖房機（ガスファンヒーター）。

（※2）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故170件に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故（ヒヤリハット情報（被害なし）を含む）。

（※3）平成26年10月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

（※4）製品本体のみの被害にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

被害状況別で、人的被害と同時に物的被害が発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

1. 事故の発生状況（全体）

（1） 年度別 事故発生件数

図1に「年度別 事故発生件数」を示します。

ガス・石油暖房機器による事故は減少傾向にあります。毎年100件を超える事故が発生しており、死亡・重傷といった重篤な事故も毎年20件前後発生しています。

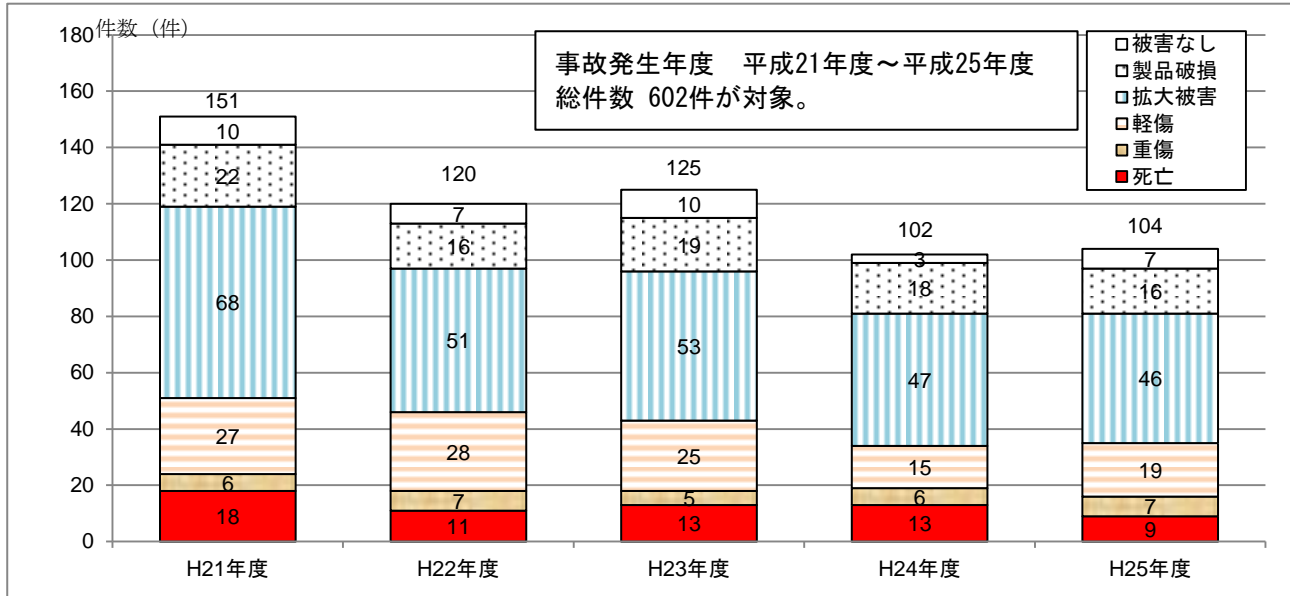


図1 年度別事故発生件数

（2） 月別 事故発生件数

図2に「月別 事故発生件数」を示します。

ガス・石油暖房機器による事故は、12月から1月にかけて最も多く発生しています。

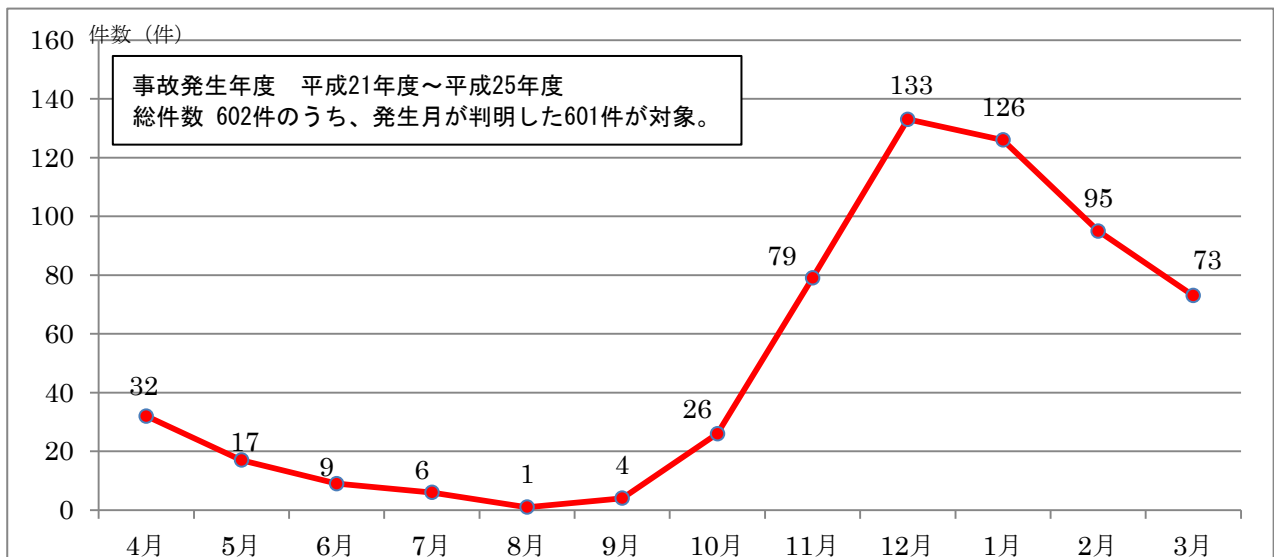


図2 月別事故発生件数

(3) 製品別 被害状況別 事故件数

表1に「製品別 被害状況別 事故件数」を示します。

石油ストーブの事故が332件、石油温風暖房機197件、ガスストーブ31件、ガス温風暖房機42件、合計602件の事故が発生しています。

表1 製品別 被害状況別 事故件数^{※5}

製品の種類	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
石油ストーブ		43	22	66	154	38	9	332
		(56)	(28)	(111)				(195)
		[40]	[17]	[48]	[107]			[212]
石油温風暖房機		16	5	41	82	31	22	197
		(18)	(7)	(58)				(83)
		[15]	[4]	[19]	[45]			[83]
ガスストーブ		3	3	2	17	6		31
		(5)	(3)	(5)				(13)
		[2]			[4]			[6]
ガス温風暖房機		2	1	5	12	16	6	42
		(2)	(1)	(6)				(9)
		[2]		[3]	[4]			[9]
合計	事故件数	64	31	114	265	91	37	602
	被害者数	(81)	(39)	(180)				(300)
	火災件数	[59]	[21]	[70]	[160]	[0]	[0]	[310]

(※5) 平成26年10月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 年代別 被害人数

図3に「年代別 被害人数」を示します。

ガス・石油暖房機器の事故被害人数は、60歳代以上から急激に増加し、死亡・重傷といった重大な被害に至る人数も大幅に増えています。

また、10歳未満の子どもが被害者になった事故においては、火災による死亡事故や、温風吹き出し口や高温部分に触れたことによるやけど等が発生しています。

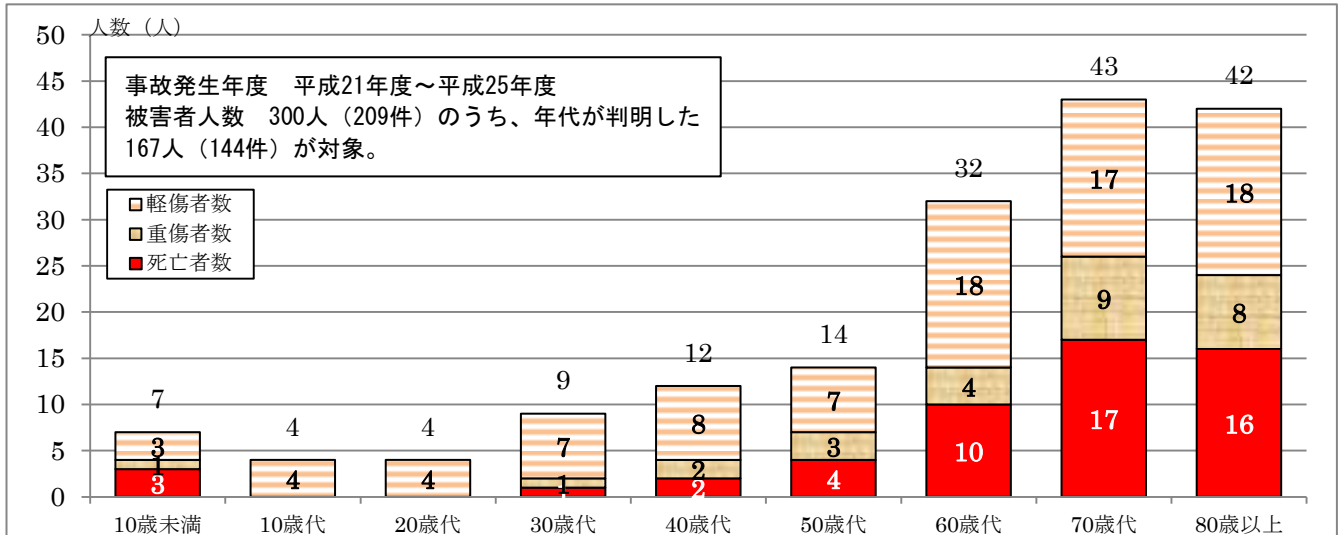


図3 年代別 被害人数

(5) 事故の使用期間別 事故発生件数

図4に「使用期間別 事故発生件数」を示します。

使い始めの(製品に不慣れな)事故が多く発生しています。使用期間が長くなるにつれて事故発生件数は減少しているものの、死亡・重傷といった重篤な事故は、使用期間20年頃まで毎年数件発生しています。

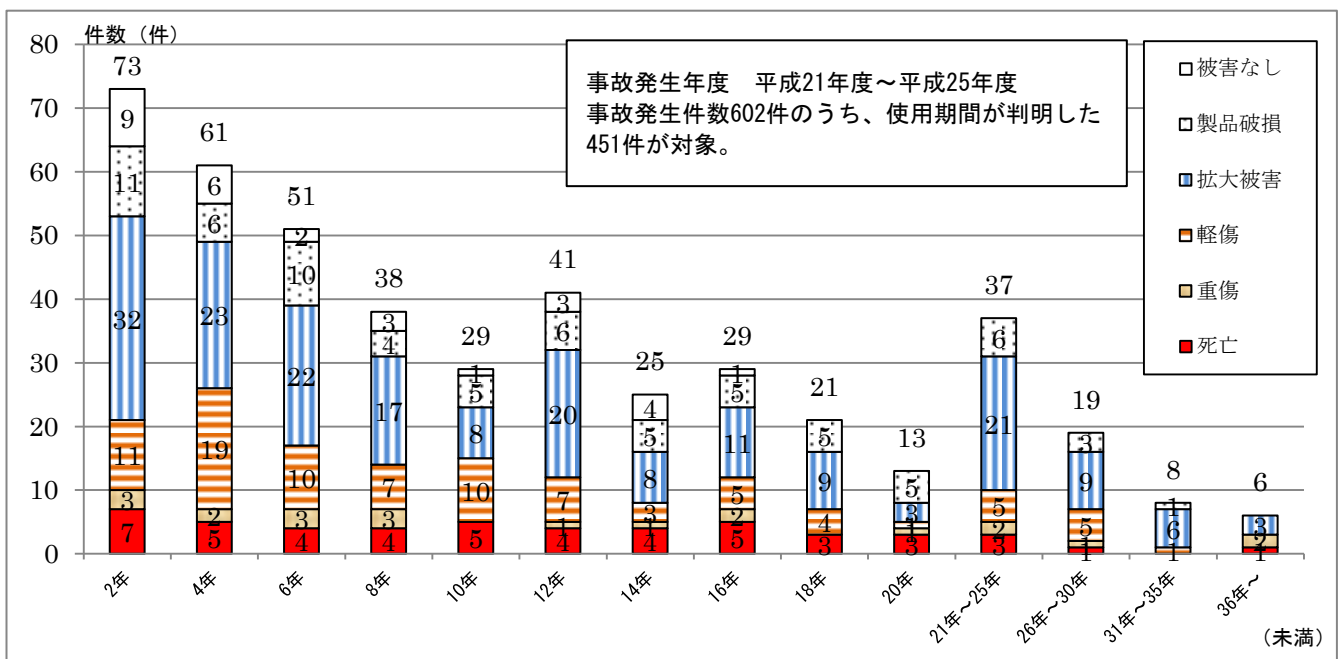


図4 使用期間別 事故発生件数

(6) 事故原因区分別 事故件数

① 事故原因区分別 事故件数

図5に「事故原因区分別 事故件数」を示します。

ガス・石油暖房機器による事故 602 件について、事故原因区分（別紙1参照）に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故（事故原因区分 A、B、C、G3） 64 件（10.7%）
- 製品に起因しない事故（事故原因区分 D、E、F） 323 件（53.6%）
- 原因不明のもの（事故原因区分 G3 を除く G） 150 件（24.9%）
- 調査中のもの（事故原因区分 H） 65 件（10.8%）

の比率になっています。その中でも「製品に起因しない事故」に分類される誤使用や不注意な使い方等の割合が最も高く、32.4%を占めています。

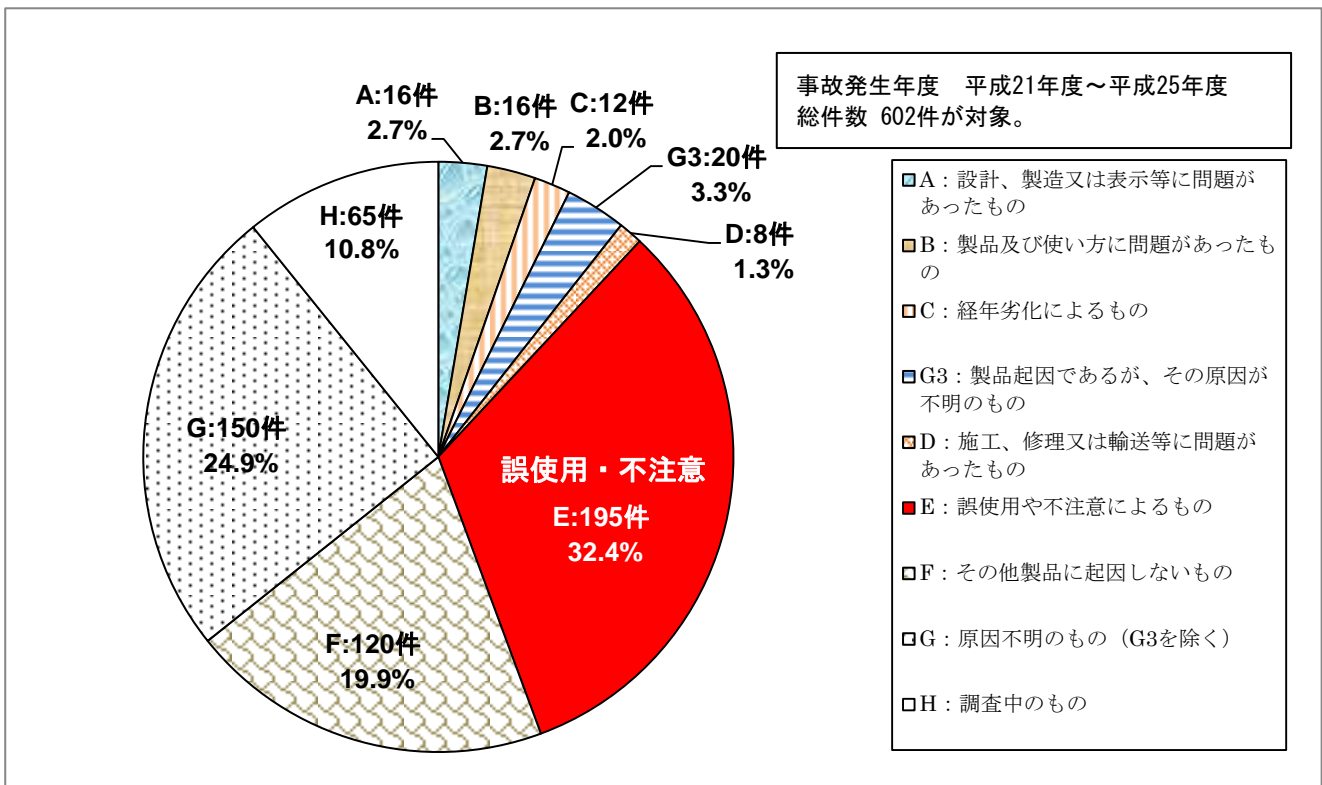


図5 事故原因区分別 事故件数

② 事故原因区分別 被害状況

表2に「事故原因区分別 被害状況」を示します。

死亡、重傷、軽傷の人的被害を伴う事故に着目すると、総合計 209 件ありますが、そのうち「製品に起因する事故」は合計 9 件（4.3%）、「製品に起因しない事故」は合計 111 件（53.1%）発生しています。その中でも「事故原因区分 E：使用者の誤使用や不注意によるもの」が最も人的被害の発生件数が多く、合計 57 件（27.3%）あります。

また、火災を伴う事故は総合計 310 件ありますが、事故原因区分 E によるものが最も多く合計 97 件（31.3%）発生しています。

「事故原因区分 G：原因不明のもの」は総合計 150 件（事故全体の 24.9%）ありますが、この中には製品事故に伴う火災等によって製品本体や主要な部品等が焼失したため、原因の特定に至らなかったもの等が含まれています。

表 2 事故原因区分別 被害状況^{※6}

被害状況 製品の種類		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの			2 (3)	9	1	4	16 (3) [0]
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	1 (1) [1]	1 (1)	5 (6) [4]	7 [4]	2		16 (8) [9]
	C: 経年劣化によるもの				1	4	7	12 (0) [0]
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの				11 [7]	7	2	20 (0) [7]
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送等に問題があったもの			1 (1)	4 [1]	3		8 (1) [1]
	E: 誤使用や不注意によるもの	11 (12) [9]	9 (13) [5]	37 (56) [21]	100 [62]	31	7	195 (81) [97]
	F: その他製品に起因しないもの	19 (30) [17]	7 (8) [6]	27 (41) [16]	56 [43]	9	2	120 (79) [82]
G: 原因不明のもの (G3 を除く)		24 (27) [23]	7 (9) [6]	31 (50) [20]	49 [29]	24	15	150 (86) [78]
H: 調査中のもの		9 (11) [9]	7 (8) [4]	11 (23) [9]	28 [14]	10		65 (42) [36]
合計	事故件数	64	31	114	265	91	37	602
	被害者数	(81)	(39)	(180)				(300)
	火災件数	[59]	[21]	[70]	[160]			[310]

(※6) 平成 26 年 10 月 31 日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。
 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(7) 事故の現象別 被害状況

① 石油暖房機器の現象別 被害状況

表3に「石油暖房機器の現象別 被害状況」を示します。

石油暖房機器による事故529件のうち、事故原因区分A、G3、G、Hを除く、309件（死亡事故27件、重傷事故14件、軽傷事故65件、拡大被害147件、製品破損40件、ほか16件）について、事故発生件数が多い現象を示しています。

「カートリッジタンクのふたのしめ方が不十分だったため、灯油がこぼれて燃焼部等にかかり引火」が最も多く75件（24.3%）発生しています。これは、給油時に消火していなかったこと等が事故に繋がったものです。

次いで「洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火」が多く、28件（9.1%）発生しています。

石油暖房機器による事故は、火災を伴う人的被害の発生割合が高く、人的被害の事故106件のうち74件（71.7%）を占めています。

(※7) 平成26年10月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(※8) 平成26年10月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

なお、ガス暖房機器による事故においては、「G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの」に該当する事故がないため、項目を省略する。

表 3 石油暖房機器の現象別 被害状況^{※7}

現象の内容	被害状況	人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
事故原因区分B～F	カートリッジタンクのふたのしめ方が不十分だったため、灯油がこぼれて燃焼部等にかかり引火	6 (8) [6]	6 (9) [5]	17 (26) [13]	39 [28]	7		75 (43) [52]
	洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火	5 (11) [5]	(1)	3 (5) [3]	20 [18]			28 (17) [26]
	ガソリンの誤給油によって異常燃焼や消火操作後に出火	1 (1) [1]	1 (1) [1]	2 (3) [1]	11 [10]	3		18 (5) [13]
	給油中にこぼれた灯油や灯油を十分拭き取らずに引火		1 (2) [1]	5 (7) [4]	4 [3]	1		11 (9) [8]
	周囲のスプレー缶やガスボンベ等が温風によって加熱されて破裂			5 (7) [2]	5 [1]	1		11 (7) [3]
	マッチやライターでの点火操作等で、燃焼筒がずれて異常燃焼	2 (2) [2]	1 (1) [1]	(1)	2 [2]	1	1	7 (4) [5]
	変質灯油の使用で異常燃焼や消火不良が発生				1	2	3	6 (0) [0]
	その他（換気が不十分で一酸化炭素中毒、大量のほこりが付着して異常燃焼等）	13 (15) [10]	5 (5) [3]	33 (48) [16]	65 [41]	25	12	153 (68) [70]
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの			2 (3)	9			11 (3) [0]	
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの				11 [7]	7	2	20 (0) [7]	
G：原因不明のもの（G3を除く）	23 (26) [22]	7 (9) [6]	30 (49) [19]	45 [28]	13	13	131 (84) [75]	
H：調査中のもの	9 (11) [9]	6 (7) [4]	10 (20) [9]	23 [14]	10		58 (38) [36]	
合計	事故件数 被害者数 火災件数	59 (74) [55]	27 (35) [21]	107 (169) [67]	235 (0) [152]	70 (0) [0]	31 (0) [0]	529 (278) [295]

② ガス暖房機器の現象別 被害状況

表 4 に「ガス暖房機器の現象別 被害状況」を示します。

ガス暖房機器による事故 73 件のうち、事故原因区分 A、G3、G、H を除く 42 件（死亡事故 4 件、重傷事故 3 件、軽傷事故 5 件、拡大被害 20 件、製品破損 10 件）について、事故発生件数が多い現象を示しています。

「製品専用のガス接続器具を使用しなかったためガスが漏れて引火」が最も多く 19 件（45.2%）発生しています。次いで「洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火」が 8 件（19.0%）発生等となっています。特に「洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火」は、火災による人的被害の発生割合が高くなっています。

表 4 ガス暖房機器の現象別 被害状況^{※8}

被害状況 現象の内容		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
事故原因区分 B、F	専用のガス接続器具を使用しなかったためガスが漏れて引火			2 (3) [1]	11 [3]	6		19 (3) [4]
	洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火	1 (1) [1]	1 (1)	2 (2) [1]	4 [2]			8 (4) [4]
	周囲のスプレー缶やガスボンベ等が温風によって加熱されて破裂	1 (1) [1]						1 (1) [1]
	ガス漏れに気づかず点火操作等を行い着火・爆発		1 (1)	(1)	2			3 (2) [0]
	ガス暖房機器に長時間あたり続けてやけどを負った		1 (1)					1 (1) [0]
	その他（空気調整器を正しく設定していなかったため不完全燃焼、長期使用による経年劣化等）	2 (4) [1]		1 (1)	3 [2]	4		10 (5) [3]
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの						1	4	5 (0) [0]
G：原因不明のもの（G3 を除く）		1 (1) [1]		1 (1) [1]	4 [1]	11	2	19 (2) [3]
H：調査中のもの			1 (1)	1 (3)	5			7 (4) [0]
合計	事故件数 被害者数 火災件数	5 (7) [4]	4 (4) [0]	7 (11) [3]	29 (0) [8]	22 (0) [0]	6 (0) [0]	73 (22) [15]

(8) 事故の事例

平成 21 年度～平成 25 年度までに NITE に寄せられた事故情報のうち、ガス・石油暖房機器を使用するにあたって多く発生している事例を示します。

(ア) ガス・石油暖房機器に共通する事故事例

① 洗濯物や周囲の可燃物が接触又は加熱されて着火

平成 23 年 2 月 10 日（新潟県、死亡、男性・年齢不明）

【事故の内容】

集合住宅の 1 室が全焼し、1 人が死亡する火災が発生した。現場にガスストーブがあった。

【事故原因】

ガスストーブの上に洗濯物を干したまま使用をしていたところ、洗濯物がガスストーブの上に落下して着火し、火災に至ったものと推定される。

② 周囲のスプレー缶やガスボンベ等が温風によって加熱されて破裂

平成 25 年 1 月 11 日（神奈川県、軽傷、性別不明・年齢不明）

【事故内容】

使用中の石油ファンヒーター付近から出火して住宅を全焼し、1 人が軽傷を負った。

【事故原因】

石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶がファンヒーターの温風で加熱され、内圧の上昇により破裂するとともに、気化した可燃性ガスにファンヒーターの火が引火し、火災に至ったものと推定される。

③ 換気が不十分だったため、不完全燃焼状態となり一酸化炭素中毒が発生（推定）

平成 21 年 12 月 23 日（福井県、死亡、男性・90 歳以上）

【事故の内容】

一酸化炭素中毒の死亡事故が発生し、現場に石油ストーブがあった。

【事故原因】

就寝時に石油ストーブを消火せず、気密性の高い閉めきった寝室で長時間使用していたため、酸素が不足して不完全燃焼となり、一酸化炭素濃度が上昇して事故に至ったものと推定される。

その他、石油暖房機器、ガス暖房機器に共通する事故事例として、機器内部にほこりが蓄積して異常燃焼が生じた事例や、長時間暖房にあたっていたためやけどを負った事例等が報告されています。

(イ) 石油暖房機器に関わる事故事例

① カートリッジタンクのふたのしめ方が不十分だったため、こぼれた灯油が燃焼部等にかかり引火

平成 22 年 1 月 26 日（富山県、死亡、女性・80 歳代以上）

【事故の内容】

火災が発生し、現場に石油ストーブがあった。

【事故原因】

カートリッジタンクのふたをしっかりとしめていなかったため、給油後に石油ストーブタンク室に戻す、または抜こうとしたときにふたが外れ、こぼれた灯油が燃焼部にかかって引火し、火災に至ったものと推定される。

② ガソリンの誤給油によって異常燃焼や消火操作後に出火

平成 22 年 4 月 27 日（兵庫県、死亡、男性・高齢者）

【事故の内容】

石油ストーブを使用中、異音とともに出火し、建物が全焼。1 人が死亡、1 人が軽傷を負った。

【事故原因】

事故現場には農機具用のガソリンが灯油とともに保管されており、ガソリンを誤給油して使用したため、異常燃焼して火災に至ったものと推定される。

③ 変質灯油の使用で消火不良

平成 23 年 12 月 20 日（熊本県、被害なし）

【事故の内容】

石油ストーブを使用中、炎が上がった。その後、治まったが、消火ボタンを押しても消火できなくなった。

【事故原因】

変質灯油を使用したため、芯先端部付近にタールが堆積して、芯が膨らみ、芯が降下できない状態になり、消火不能になったものと推定される。

その他、消火せずに給油を行ったため、こぼれた灯油が燃焼部にかかり引火した事例や石油ストーブの燃焼筒の位置がずれていたため、異常燃焼を起こして炎があふれ、灯油に引火した事例等が報告されています。

(ウ) ガス暖房機器に関わる事故事例**① 製品専用のガス接続具を使用しなかったためガスが漏れて引火**

平成 25 年 10 月 19 日（千葉県、軽傷、性別不明・年齢不明）

【事故の内容】

使用中のガスファンヒーター付近から出火して住宅を全焼し、1 人が軽傷を負った。

【事故原因】

ガスファンヒーターのガス接続口に専用ガスコード（両端に接続継手が装着されているもの）ではなく、汎用のガス用ゴム管を接続して使用したため、接続口からガスが漏れ、漏れたガスにガスファンヒーターの火が引火したものと推定される。

② ガス漏れに気づかず点火操作等を行い着火・爆発

平成 22 年 4 月 22 日（愛媛県、重傷・軽傷、女性・高齢者）

【事故の内容】

ガスストーブを点火したところ、漏洩していたとみられるガスに引火して爆発し、2 名が負傷した。

【事故原因】

ガス栓つまみが「半開」の位置になっており、ガスが充満していたところに点火操作を行ったために、ガスに着火・爆発したものと推定される。

その他、ガス接続口へのガス接続具の差し込みが不十分だったためガス漏れが生じ、ガスストーブの火が引火した事例や、長期間の使用によってガスホースに亀裂が入ってガス漏れが生じ、ガスストーブの火が引火した事例等が報告されています。

3. ガス・石油暖房機器による事故の防止

ガス・石油暖房機器による事故を未然に防ぐため、取扱説明書の注意事項をよく読み、正しく使用していただき、機器の異常や事故の予兆に早めに気がつくことが必要です。

不具合や故障が判明した時は、使用を中止して、お買い求めの販売店や製造事業者にご相談してください。

(1) ガス・石油暖房機器に共通する事故の防止

① 機器に異常を感じた場合は使用を中止し、販売店や製造事業者にご相談する

② 洗濯物の乾燥等、機器の上部や周囲に可燃物やスプレー缶等を置かない

暖房機器の上や周囲で洗濯物の乾燥を行わないでください。洗濯物が暖房機器に落ちる、加熱されて着火するなど、火災が発生するおそれがあります。

また、布団やカーテンなどの可燃物や可燃ガスを含むスプレー缶などを周囲に置かないでください。

高温部に接触したり、加熱による火災や破裂・爆発が発生するおそれがあります。



(図) 石油ストーブの上で干した洗濯物が落下して引火（再現実験）

③ 定期的に換気し、就寝時や外出時は必ず消火する

使用中は、1時間に1～2回ほど換気を行ってください。

また、就寝時や外出時、人のいない場所では必ず消火してください。

(2) 石油暖房機器による事故の防止

① ガソリンや変質灯油^{※9}は使用しない

ガソリンを使用すると火災の原因になりますので、絶対に使用せず、必ず灯油を使用してください。

給油時に間違ってガソリンを入れないよう、灯油やガソリンの保管には十分注意してください。

(図) 石油ストーブにガソリンを誤給油したため発火(再現実験)



変質した灯油を使用すると、石油暖房機の芯にタールが溜まり、消火時に芯が下がらず火が消えない、異常燃焼や不完全燃焼といった現象が発生するおそれがあります。

昨シーズンから持ち越した灯油や直射日光の当たる場所、高温になる場所で保管された灯油は使用しないでください。灯油を廃棄する場合は、近くのガソリンスタンドや灯油販売店等に相談してください。



(図) 芯が下がらず、消火不良となった芯式石油ストーブ

(※9) 変質灯油 (経時変化で酸化した灯油等) または 不純灯油 (汚れた灯油、水の混ざった灯油等)

■ 灯油の変質と日光・空気の影響

図6に「ポリタンクに保管した灯油の経過日数と検知管^{※9}の指示値の変化(変質)」を示します。「屋内保管：色付きポリタンク/ふた締め」の条件が変質には強く、色の濃いポリタンクにふたをしっかりと締めて屋内に保管する事が推奨されます。

(※9) 検知管：灯油の変質を判定する器具で指示値が1mm以上であれば変質していると判断する。

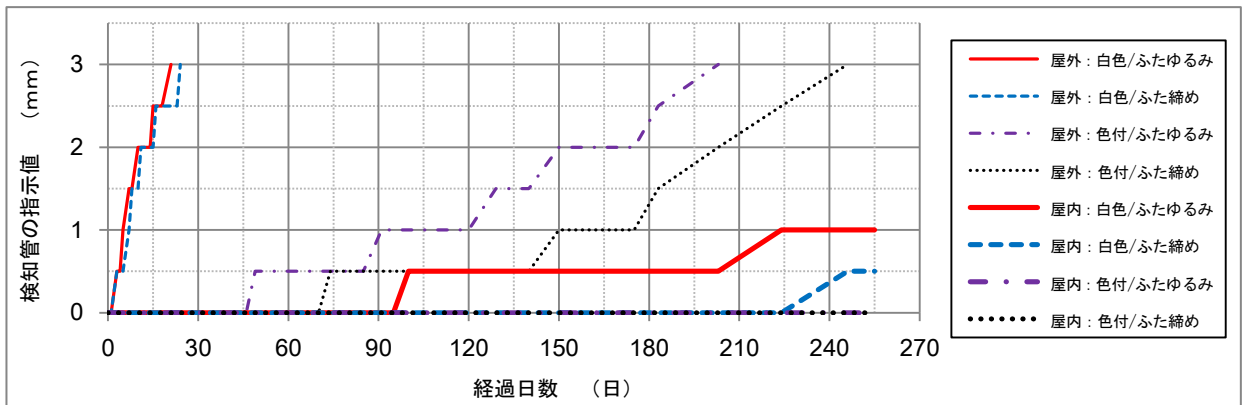


図6 ポリタンクに保管した灯油の経過日数と検知管の指示値の変化 (変質)

従来は、灯油の変質の程度は、色やにおいの変化によって判別可能とされてきましたが、外観の変化が見られない灯油であっても劣化しているおそれがありますので、注意が必要です。

(図) 左から新品の灯油、色の変化がない変質した灯油、変色した灯油



- ② 給油する際は、消火操作を行い、火が完全に消えたことを確認する
- ③ 給油後はカートリッジタンクから灯油が漏れていないか確認する
給油時にカートリッジタンクのふたは確実にしめ、正しくしまったことを確認してください。
また、給油時に灯油がこぼれた場合は、こぼれた灯油を完全に拭き取ってください。拭き取りが不十分だと、再点火をした時に残った灯油に引火するおそれがあります。
- ④ 燃焼筒を正しくセットする
点火操作後、燃焼筒のつまみを2~3回ほど動かして燃焼筒が正しくセットされているかを確認してください。燃焼筒を外したり正しくセットされていないと、異常燃焼によって炎があふれ、火災が発生するおそれがあります。
特に、自動点火装置を使わず、マッチやライターを使用して点火する場合は、燃焼筒を正しい位置にセットしたか必ず確認してください。
- ⑤ 安全基準が向上した（PSC マーク表示）石油暖房機器を使用する
平成21年4月から、石油ストーブをはじめとする石油燃焼機器においては、PSC マーク（別紙2参照）が表示された製品が販売されています。給油時消火装置や不完全燃焼防止装置など、安全に関する項目が規定されており、これらの製品を使用することも事故の防止には有効です。

(3) ガス暖房機器による事故の防止

① ガス暖房機器を使用する際は、適切なガス接続具^{※10}で正しく接続する

ガス暖房機器を使用する際は、ガス栓とガス暖房機器が適切なガス接続具で正しく接続されていることを確認してからガス栓を開いてください（別紙3参照）。

- ガス栓の周囲に障害物がある時は、接続部やガスコードに無理な力がかからないよう L 型迅速継手等を使用してください。
- ガスコードは適切な長さのものを使用してください。長すぎると高温部に触れたり突起部に引っかかる等、ガス漏れの原因になります。



(図) 指定されたガス接続具を使用しなかったため、ガスが漏れて引火(再現実験)

(※10) ガス接続具とは、ガスコード、迅速継手（ガス器具とガス栓の接続をソケットとプラグを用いてワンタッチで接続する器具）等を指す。

② ガス接続具はしっかりと差し込み、固定する

ガス接続具を差し込む際は、差し込み口にある赤線が隠れるまでしっかりと差し込んでください。差し込みが不十分だと、使用している内にガス接続具が外れ、ガス漏れが発生するおそれがあります。

③ 常日頃からガス漏れに注意し、ガス漏れの疑いがあるときは、点火操作やライター等の火気の使用はしない

【NITE が実施した過去の注意喚起・関連情報】

- 変質した灯油による石油ストーブの事故の防止（平成 26 年 3 月 27 日）
<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs140327.html>
- 一酸化炭素中毒の事故防止（平成 25 年 11 月 28 日）
<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs131128.html>
- 石油ストーブによる事故の防止（平成 24 年 10 月 18 日）
<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs12101801.html>

4. 社告・リコール情報の検索

NITE ホームページにおいて、平成元年度（1989 年度）以降に製造業者、販売業者等の事業者が行った社告・リコール情報を収集したデータベースを公開しており、社告・リコール情報の検索を行うことができます。

平成 21 年 4 月以降に行われたガス・石油暖房機器の社告・リコール情報について、別紙 4 に記載しています。

<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE」、「リコール」等の単語で検索してください。



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大福 敏彦
担当者 長田、池谷、西澤

- 記者説明会当日
電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870
- 記者説明会翌日以降
電話：06-6942-1113 FAX：06-6946-7280

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

	区分記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品起因であるが、その原因が不明のもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの（G3は除く）	原因不明
	H	調査中のもの	調査中のもの

ガス・石油暖房機器の事故防止対策

ガス・石油暖房機器による事故を防止するため、「消費生活用製品安全法」、「ガス事業法」、「液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律」等の各種法令において、ガス・石油暖房機器の技術基準が定められています。

1. 石油暖房機器

石油ストーブをはじめとする石油燃焼機器^{※1}は、平成 21 年 4 月 1 日から消費生活用製品安全法の「特定製品」に指定され、平成 23 年 4 月 1 日からは PSC マークの無い製品は販売することができなくなりました。

(※1) 石油給湯機、石油ふろがま、石油ファンヒーター及び石油ストーブ（開放式、半密閉式、密閉式）

(1) 石油燃焼機器に表示される PS マーク



消費者が日常使用する製品（消費生活用製品）のうち、構造、材質、使用状況等からみて、一般消費者の生命又は身体に対して危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品を「特定製品」としていません。

現在は、石油ファンヒーターを含む石油ストーブ、家庭用の圧力鍋及び圧力がま等、10 製品が指定されています。

(図) 石油燃焼機器に表示される PSC マーク

(2) 石油ストーブの主な技術基準^{※2}

① 自然通気型開放式石油ストーブ

- 給油時消火装置
給油時、機器からカートリッジタンクを抜いた場合 90 秒以内に消火すること。
- カートリッジタンクのふた
閉止音や目視または感触等でふたがしまっていることが確認できること。

② 強制通気型開放式石油ストーブ（石油ファンヒーター）

- 給油時消火装置
給油時、機器からカートリッジタンクを抜いた場合 90 秒以内に消火すること。
- カートリッジタンクのふた
閉止音や目視または感触等でふたがしまっていることが確認できること。
- 不完全燃焼防止装置
運転中に一酸化炭素濃度が基準値以上になった場合、自動的に運転を停止する機能。
- 不完全燃焼通知機能
4 回を上限として、連続して不完全燃焼防止装置が作動した場合、自動的に運転を停止する機能。
- 再点火防止機能
連続不完全燃焼装置が作動した後、さらに連続して 3 回を上限として、不完全燃焼防止装置が作動した後は、通常操作では再度点火することができない状態にする機能

③ 半密閉式石油ストーブ、密閉式石油ストーブ

- 不完全燃焼防止装置
運転中に一酸化炭素濃度が基準値以上になった場合、自動的に運転を停止する機能。
- 不完全燃焼通知機能
4回を上限として、連続して不完全燃焼防止装置が作動した場合、自動的に運転を停止する機能。
- 再点火防止機能
連続不完全燃焼装置が作動した後、さらに連続して3回を上限として、不完全燃焼防止装置が作動した後は、通常操作では再度点火することができない状態にする機能

(※2) 「経済産業省関係特定製品の技術上の基準等に関する省令 別表第1」より一部抜粋

2. ガス暖房機器

平成 12 年におけるガス事業法並びに液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律の改正に伴い、ガス用品及び液化石油ガス (LPG) 器具等について、基準適合を示す表示が義務づけられました。

(1) ガス暖房機器に表示される PS マーク

① 特定ガス製品

- ガスストーブ (半密閉式に限る)、他



② 特定以外のガス用品

- ガスストーブ (開放式、密閉式、屋外式に限る)、他



③ 特定液化石油ガス (LPG) 器具等

- ストーブ (半密閉式に限る)、他



④ 特定以外の液化石油ガス (LPG) 器具等

- ストーブ (開放式、密閉式、屋外式に限る)、他



(2) ガス暖房機器の主な技術基準^{※3}

① 開放燃焼式ストーブ

● 警告表示の義務化

機器本体前面の見やすい箇所に容易に消えない方法で「換気しないと死に至るおそれがある」旨の警告を 20 ポイント以上の大きさで表示。

● 燃焼ガス中における一酸化炭素濃度基準

通常燃焼状態における理論乾燥燃焼ガス中の一酸化炭素濃度（体積パーセント）の基準値を 0.03% とする。

● 不完全燃焼防止装置が作動する一酸化炭素濃度基準値及び作動時間の見直し

② 半密閉燃焼式ガスストーブ

● 点火操作を 10 回繰り返し、8 回以上点火し、かつ連続して点火しないことがないこと。

● 着火操作を行ったとき、爆発的に点火しないこと

● 立ち消え安全装置

炎検出部が機能しなかったとき、バーナーへのガスの通路を自動的に閉ざす機能

● 逆風止めを有すること

③ 開放燃焼式ストーブ、密閉燃焼式ストーブ、屋外式ガスストーブ

● 点火操作を 10 回繰り返し、8 回以上点火し、かつ連続して点火しないことがないこと。

● メインバーナーへの着火操作を行ったとき、

① 確実に着火し、かつ、爆発的に着火しないこと。

② 1 点に着火した後 4 秒以内にすべての炎口に着火すること。

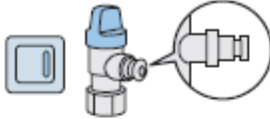
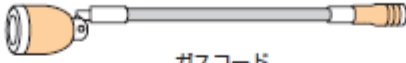

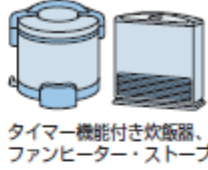
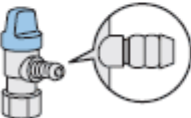






● 立ち消え安全装置

炎検出部が機能しなかったとき、バーナーへのガスの通路を自動的に閉ざす機能

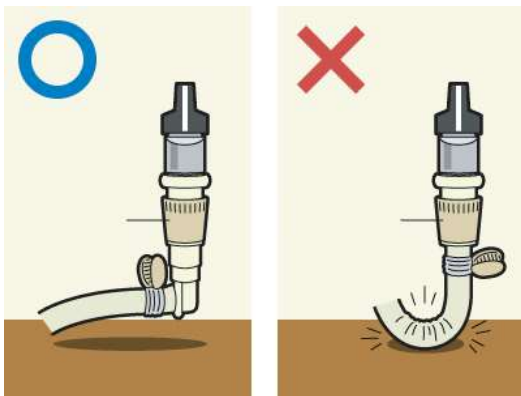
(※3) 「ガス用品の技術上の基準等に関する省令 別表第 3」より一部抜粋

ガス栓とガス接続具の正しい装着方法※

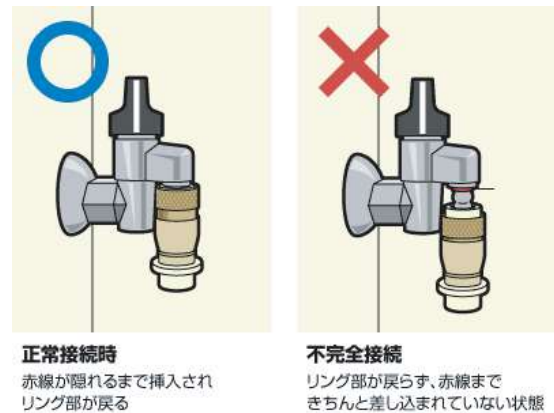
(1) ガス栓とガス機器の正しい接続具

ガス栓	接続具	ガス機器
 <p>コンセント型ガス栓</p>	 <p>ガスコード</p>	 <p>スリムプラグ型機器</p>  <p>タイマー機能付き炊飯器、 ファンヒーター・ストーブ</p>
 <p>ホースエンド型ガス栓</p>	<p>禁止</p>  <p>事故が多い! ガス用ゴム管</p>  <p>ガス栓用 プラグ</p>  <p>ガスコード</p>	 <p>スリムプラグ型機器</p>  <p>タイマー機能付き炊飯器</p>  <p>ファンヒーター・ ストーブ</p>

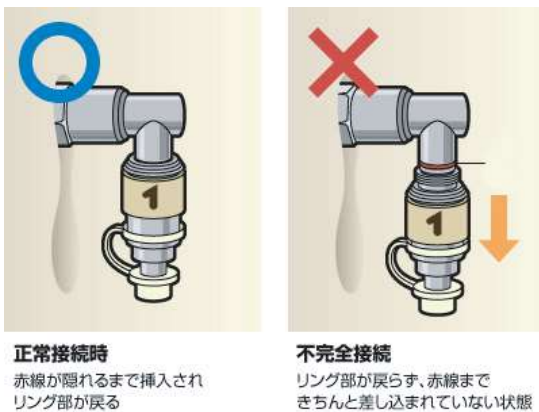
(2) 迅速継手の選び方



(3) ガス栓とガス栓用プラグの接続



(4) ガス機器と機器用スリムプラグの接続



(※) 一般社団法人日本ガス石油機器工業会ホームページより抜粋

<http://www.jgka.or.jp/index.html>

平成 21 年度以降に NITE に通知されたガス・石油暖房機器の社告・リコール情報（修理・施工不備によるものや注意喚起を含む）について、以下の表に示します。

社告・リコール一覧

公表日	品名	事業者名	概要
2014/11/11	石油ファンヒーター	【輸入元】 株式会社 千石 【販売元】 日本エー・アイ・シー株式会社	[製品名及び型式] ブランド名：アラジン 製品名：AKF-P359N（2014 年秋の新商品） 型番：No、55.001001～55.028483 JAN コード：T4962365015753、T4962365015760 [URL] http://www.aladdin-aic.com/%E3%82%A2%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%B3%E7%9F%B3%E6%B2%B9%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%83%92%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%BCAKF-P359N%E3%81%94%E8%B3%BC%E5%85%A5%E3%81%AE%E3%81%8A%E5%AE%A2%E6%A7%98%E3%81%B8.pdf
2013/04/08	石油ストーブ	【輸入元】 有限会社グローバルトラスト 【販売元】 コーナン商事株式会社	[製品名及び型式] ブランド名：アルパカ 型番：TSG-1 (S) 2010 年製 [URL] http://www.hc-kohnan.com/pdf/kinkoku_sekiyustove_2013.04.8.pdf
2013/03/15	石油ストーブ	平城商事株式会社	[製品名及び型式] アルパカストーブ 型式：TS-77SN [URL] http://www.hirakishoji.co.jp/company/news250228.html
2013/03/07	ガスストーブ	株式会社 世田谷製作所	[製品名及び型式] ガスストーブ 株式会社 世田谷製作所 GS-1 [URL] http://www.setagaya-seisakusyo.co.jp/
2012/10/09	石油ファンヒーター	【販売元】 日本エー・アイ・シー株式会社 【製造元】 株式会社千石	[製品名及び型式] アラジン 石油ファンヒーター 品番：AKF-P321N(W) JAN コード：4962365015371 定格ラベル年製：2010 年製のみ [URL] http://www.aladdin-aic.com/mt_download_data/110204.pdf

公表日	品名	事業者名	概要
2011/09/27	ワンタッチ式給油タンク (よごれま栓タンク)	株式会社コロナ	<p>※2008年9月18日に行った社告の再社告 [製品名及び型式]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象石油ストーブ(反射型) 【製造年/型式】 <ul style="list-style-type: none"> 1987年: SX-1800DX SX-2200DX 1988年: SX-1800 SX-2200 SX-1800DXA SX-2200DXA 1989年: SX-1810 SX-2210 SX-3000 1990年: SX-1820 SX-2220 SX-3020 1991年: SX-1840 SX-2240 SX-3040 1992年: SX-1850 SX-2250 SX-2250X SX-3050 1993年: SX-1860 SX-2260 SX-3060 1994年: SX-1870 SX-2270 SX-3060 1995年: SX-1880Y SX-2280Y SX-3080Y 1996年: SX-1800Y SX-2200Y SX-3080Y NX-22Y RX-D18Y 1997年: SX-B21Y SX-B26Y SX-B35Y SX-B27WY NX-26YRX-B21Y RX-B26Y 1998年: SX-C210Y SX-C260Y NX-26Y 1999年: SX-D27WY2000年: SX-E210Y SX-E260Y SX-E21Y SX-E26Y SX-B35YA SX-D27WYA NX-26YA KM-D27WY ● 対象石油ファンヒーター 【製造年/型式】 <ul style="list-style-type: none"> 1993年: FH-3360AYL 1994年: FH-2570Y FH-3270Y FH-3370AYL GT-2570Y GT-3270Y FK-F250 FK-F320 KH-A25Y KH-A32Y KH-3207Y 1995年: FH-2580Y FH-3280Y FH-5580Y FH-2580AY FH-3380AY NH-2580Y NH-3280Y GT-2580Y GT-3280Y KH-B25Y KH-B32Y FK-G250 FK-G320 AH-3280Y 1996年: FH-A30Y FH-A37Y FH-A47Y FH-A60Y FH-A30AY FH-A37AY NH-A30Y NH-A37Y GT-A30Y GT-A37Y GT-A30YJ KH-A30WS KH-A37WS KH-C30Y KH-C37Y FK-H30 FK-H37 1997年: FH-B30AY FH-B37AY FH-B30BY FH-B40BY FH-B50BY FH-B62Y NH-B30BY NH-B40BY GT-B30BY GT-B40BY KH-B30WS KH-B40WS KH-D30BY KH-D40BY FK-J30 FK-J40 1998年: FH-C320BY FH-C430BY FH-C530BY GT-C30Y GT-C32BY GT-C53BY FK-K32 FK-K53 KCF-A300 1999年: FH-D320BY FH-D430BY FH-D530BY FH-MD30Y GT-D30Y GT-D32BY GT-D43BY GT-D53BY GT-EG30Y GT-KS30Y FK-L30 FK-L32 FK-L43 FK-L53 2000年: FH-E62Y FH-EX32BY FH-EX43BY FH-EX53BY FH-ES32BY GT-E30Y KM-30Y KS-E30Y FK-M30 FK-M32 FK-M43 FK-M53 FJ-V30Y <p>[URL] http://www.corona.co.jp/report/oshirase.html</p>

公表日	品名	事業者名	概要
2011/08/01	石油ファンヒーター	【販売元】 日本エー・アイ・シー株式会社 【製造元】 株式会社千石	[製品名及び型式] アラジン 石油ファンヒーター 品番：AKF-P321N(W) JANコード：4962365015371 定格ラベル年製：2010年製のみ [URL] http://www.aladdin-aic.com/mt_download_data/201108.pdf
2010/10/25	石油ファンヒーター	三洋電機株式会社	[製品名及び型式] CFH-S221F [URL] http://panasonic.co.jp/sanyo/info/products_safety/070129.html
2010/09/01	石油ストーブ	【輸入元】 株式会社 千石 【販売元】 株式会社グリーンウッド/ 日本エー・アイ・シー株式会社	[製品名及び型式] ● 株式会社 グリーンウッド グリーンウッド GKP-S241N、GKP-M2401N、GKP-W301N ● 日本エー・アイ・シー株式会社 アラジン AKP-U28A、AKP-S280、AKP-S300 [URL] ● 株式会社 千石 http://www.sengoku.jp.co.jp/ ● 株式会社 グリーンウッド http://www.gwgw.co.jp/pdf/notice/GWHP0831.pdf ● 日本エー・アイ・シー株式会社 http://www.aladdin-aic.com/mt_download_data/ADHP0831.pdf
2010/03/30	石油ストーブ	【輸入】 株式会社千石 【販売】 日本エー・アイ・シー株式会社	[製品名及び型式] 石油ストーブ：AKP-U28A、AKP-S280、AKP-S300 [URL] ● 株式会社 千石 http://www.sengoku.jp.co.jp/ ● 日本エー・アイ・シー株式会社 http://www.aladdin-aic.com/mt_download_data/important_information.pdf
2010/03/30	石油ストーブ	【輸入】 株式会社千石 【販売】 株式会社グリーンウッド	[製品名及び型式] 石油ストーブ：GKP-S241N、GKP-M2401N、GKP-W301N [URL] ● 株式会社 千石 http://www.sengoku.jp.co.jp/ ● 株式会社 グリーンウッド http://www.gwgw.co.jp/pdf/notice/20010326.pdf
2009/11/26	石油ストーブ	株式会社 トヨトミ	[製品名及び型式] 芯上下式石油ストーブ：PA-239 http://www.toyotomi.jp/